

夫 塚 田 原 最 隆 幸 五

理学部長 菅 原 正 博

理学部新入生の皆さん、入学おめでとう。教官の一人として皆さんを心から歓迎いたします。申すまでもなく、理学は自然の理、すなわち自然界の事実やことわり、を学ぶ学問です。科学の原点であり、理論的な基礎です。その理学への道は、自然を直視して「なぜか」と考えた多くの先達によって開拓されて積み重ねられた遺産を基にして、次第に視野をより多様なもの、より精密なもの、そしてより新たなものとしながら、さらに大なる自然の普遍性を探し求めて、やはり「なぜか」と考える多くの個性によって引き継がれて行くだろう、永遠の未知なる真理への道なのでしょう。

皆さんは、その現代理学のある一分野との出会いがこれから始まる、といえましょう。理学のより正しい認識には根幹を成している基礎的な考え方が肝要であり、すでに知っているかと思っているかもしれない内容を正しく再認識する必要も多いからです。そして次第に、より高度な理学の遺産へと新しい出会いが積み重ねられて行くことになります。それは、演習実験などにより事実を見ることのできる目を養い、理論的な推論により「なぜか」と考えることのできる感覚を培い、そして普遍性を求める柔軟な物の考え方を身につける場ともなしましょう。やがて皆さんが理学部卒業生となるだろうとき、社会は知識だけではなく、培われた感覚と物の考え方にも大いに期待するでしょう。

なににでも興味を見出すことのできる柔軟

な頭脳のトレーニングができるのは、皆さんのような若いときだけ、と言っても過言ではありません。理学との出会いには、新しい認識を得る楽しさに加えて、自分なりに開拓できる楽しさがありますが、それは試行錯誤を繰り返すことのできる感覚によって体験できるものでしょう。それらは創造へのより能動的な努力と意欲によって支えられるもので、座して得られるものではありません。

皆さん、自然の理を思いっきり学び、自分の可能性をとことん追求して下さい。そして学友や先輩そして教官との人間的な出会いも大切にして下さい。より健全に、より有意義に、大学生の4年間を送ってほしい、と切に願うものです。

終わりに理学部I号館とその正面玄関を入った右側に置かれている二基のついでにふれます。大学正門の真正面にどろしりと建つこの3階建は、外壁の古いタイルのはく落がことに裏側で目立ちます。旧広島文理科大学の本館でしたが、原爆の強烈な爆風と熱線で廃墟と化し、辛うじて1階の3室のみが当時の教官学生の努力で焼失を免れた由です。その後の全面改修の折に取り除かれた北入口付近の廊下壁面のタイルを組み立てたのがついでです。そこに付着している血痕は、暗黒となった校舎から傷つきながらも九死に一生を得てはい出してきた人達が残したものです。その一基の炭化した樺と台は、わずかながら焼け残った1階の階段の手すりと支柱を使用したものです。